

# AJ

# 287

VOL.

AGUA JOURNAL  
Nature Aquarium  
information magazine

SEPTEMBER.2019  
100YEN

## NATURE IN THE GLASS

ネイチャーアクアリウム 石組 -IWAGUMI-

ADA Review

天野 尚が創造した石組の世界

FIELD REPORT

「自然から学ぶ石組のヒント」

みずくさFOCUS 第22回

「佗び草マットの進歩」

ネオグラス エア スタイル #10

Plant Art Studio #22







# FIELD REPORT IN NIIGATA

## 「自然から学ぶ石組のヒント」

写真・文／本間 裕介

### 海の風景から学ぶ 石組のヒント

新潟県北部、山形県との県境にも程近い笹川流れは、日本海の海岸線に奇岩や岩礁が続く景勝地である。天野 尚は何度もこの地を訪れ、風景写真の撮影を行ってきた。それらの風景写真は、天野の写真集をはじめ、過去の「アクア・ジャーナル」や「SUIKEI」などに石組レイアウトのヒントとして掲載されてきた。私は天野の撮影助手としてそれらの撮影に同行してきたが、今回、AJに石組レイアウトを掲載するにあたり、私自身、改めて石組を学ぶ

ために、まずは天野に縁のあるこの地を訪れることにした。天野の石組レイアウトは、当初は川の水中央景観に着想を得てつくられたものだったが、作品を重ねるごとに海の風景から学んだ要素も多く取り入れられるようになった。天野がよく話していた海の風景から学ぶべき点は、川とは違った石(岩)のつながりと流れがあるということだった。一見独立している岩も、海中や海底(地中)ではつながっている。それを石組で表現するために、石の種類はもちろん、色や質感を合わせ、表面の凹凸や溝の方向にも注意を払う。そうすることで、石組に自然な一体感が生まれるのだ。

笹川流れは天野が何度も撮影に訪れていた縁のある場所。石組を学ぶのにこれほどの適地はない。新潟県 村上市 板貝／ヘルビア100F 5×7in.



水景クリエイター・本間裕介は、天野の助手として長年撮影に同行。今回は天野の大判カメラで撮影も行いました。(編集部)



笹川流れには形のいい岩が点在している。カメラのファインダーで見ただけでも風景を切り取る練習になり、水景制作に生かすことができる。

新潟県 村上市 脇川／ヘルビア100F 5×7in.

風景をトリミングして  
見えてくる  
石組のヒント



さらに、広い風景の中から一部を切り取ると石組のヒントが明確になってくる。点在する岩は海中でつながっていて、そこには一定の流れがある。



石組レイアウトの中で、親石は流れや方向性を決める重要な存在である。この風景写真の中でも、中央の大きな岩が流れや方向性を決定している。

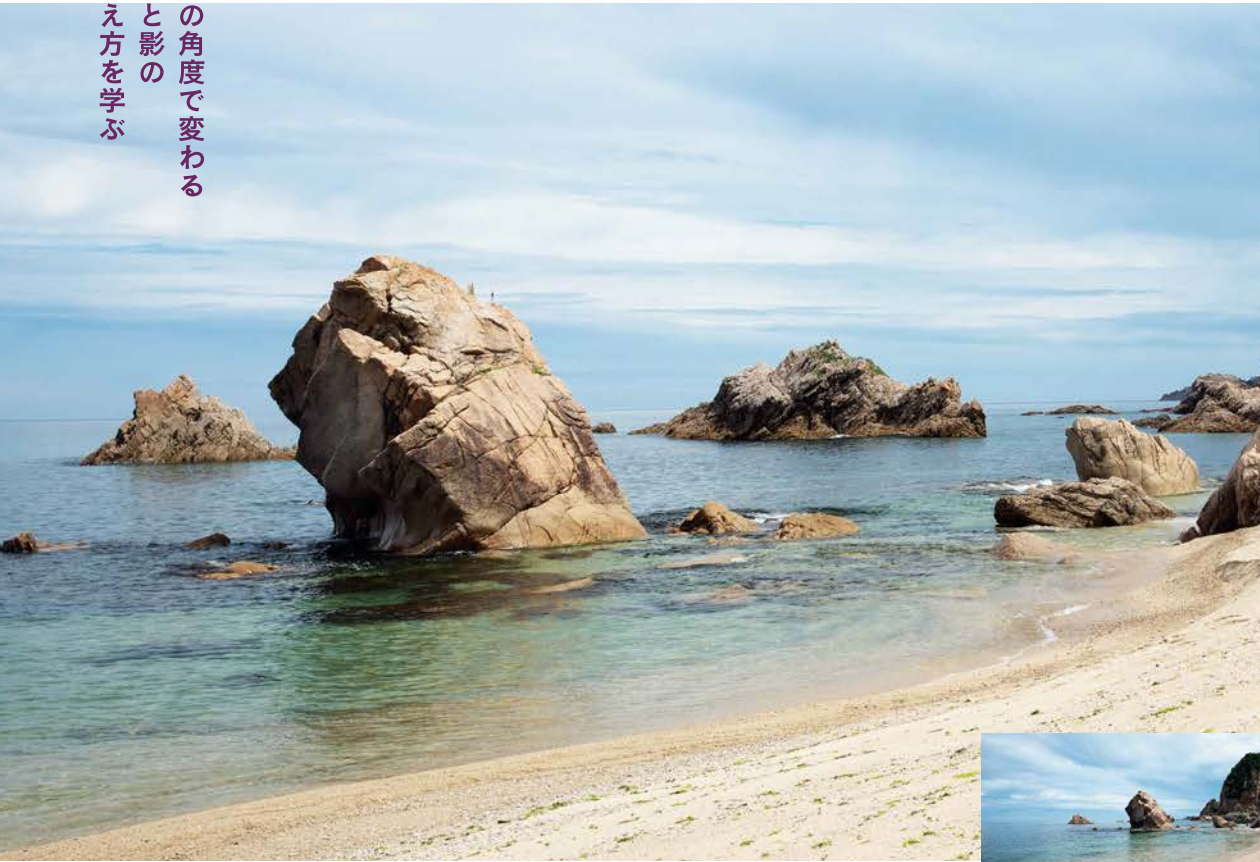
新潟県 村上市 板貝／ヘルビア100F 5×7in.

構図を安定させる  
配石のバランスを学ぶ

ネイチャーアクアリウム、そして石組レイアウトの創始者である天野 尚。天野独自の自然観を育ててきたのは新潟の自然です。今回は石組のヒントを求めて、水景クリエイター・本間裕介が笹川流れと水無川を訪れました。



石の角度で変わる  
光と影の  
見え方を学ぶ



この風景の主題である岩は、傾きと影によって迫力と流れが生まれ存在感が増している。光の当たり方によっても岩の印象は大きく変わってくる。

新潟県 村上市 今川

## FIELD REPORT IN NIIGATA

### 岩がつくり出す 風景のダイナミズム

海の岩に見られる“流れ”は、岩の傾きとその連なり方（方向性）によって感じられるものである。川石の場合、おもに水の流れによって傾きや方向性が決まるが、海の岩の場合は海底の隆起や沈降、地層の褶曲や断層といった地殻変動の影響を受け、さらにそこに波による侵食作用などが加わることで、ある岩とその周囲の岩に“流れ”が生まれるのだ。そのため、海の岩がつくる風景はダイナミックであり、そこから学んだ石組も迫力が感じられるものになる。石組でこの動的な迫力を表現するには、親石を傾けて不安定に見せることが効果的だが、この親石の傾きを強調するテクニックとして影の見せ方がある。また、石組で遠近感を表現するには、大きめの石を手前に、小さめの石を奥に配置する配石方法が効果的である。これらのテクニックも海の風景から学ぶことができる。



広角レンズを使い、手前に大きな岩、奥に小さな岩が見える位置から撮影することで遠近感を表現することができる。これは水景制作にも通じる。



天野が折に触れて言っていた通り、風景の撮影から学べることはたくさんある。

奥行き、遠近感を  
自然の配石から学ぶ

石の傾きによる  
水の流れの  
表現を学ぶ



山間を流れる水無川。このような溪流では、至る所に石組のヒントがある。自然を切り取る風景写真は、それらのヒントを見つけるのにも役立つ。

新潟県 南魚沼市

石組レイアウトでは、石の配置だけでなく植栽によっても水の流れが表現できる。そのためには、この写真の草のように、連続性とリズムが重要になる。

### 川の風景に学ぶ 石組のヒント

魚沼地域を流れる清流、魚野川。その支流の一つである水無川は、天野が石組レイアウト用の川石として愛用してきた八海石を産する川でもある。溪流は、海とは違って石の流れや方向性が分かりやすい。川は上流から下流に向けて一方向に流れ、誰が見ても水の流れが理解できるからである。ただし、実際にはその流れの強さや方向は複雑に変化しており、石の向きや傾きも一定ではない。それが、川石を用いて石組をつくる際のヒントになる。

## FIELD REPORT IN NIIGATA

### 水の流れと 植栽表現を学ぶ



水の流れによって石の傾きが変わり、さらにそこで水の流れが変わること、他の石に与える影響も変わる。水の流れや石の傾きは一定ではない。



# NATURE IN THE GLASS

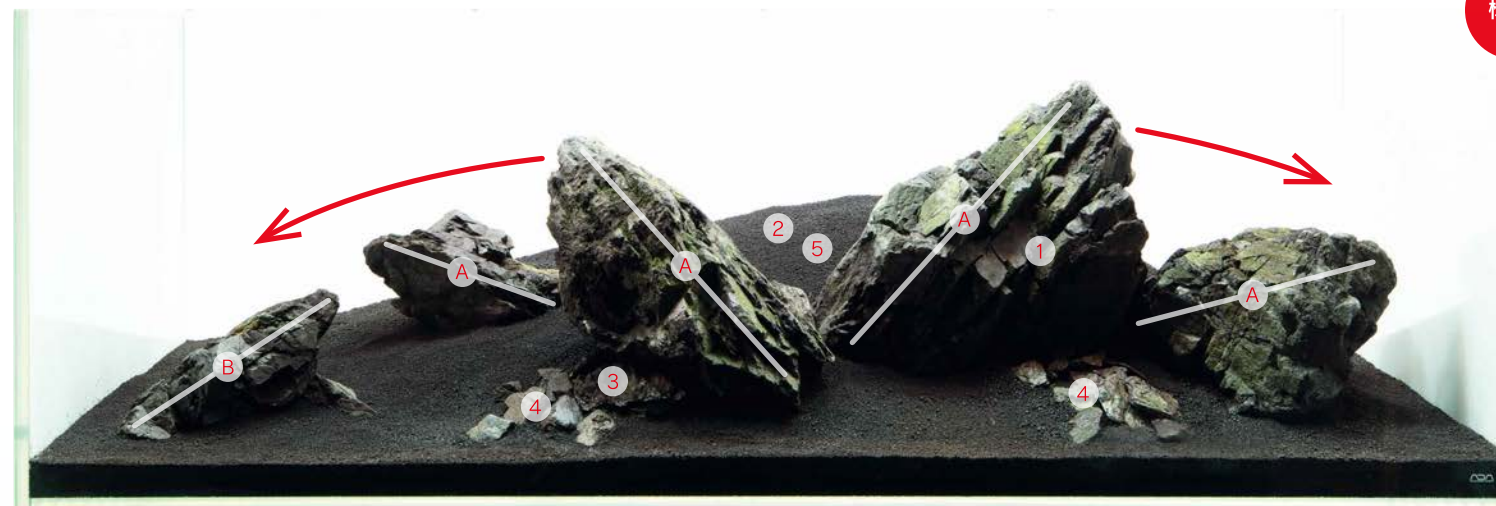
Yusuke Homma

## NAギャラリーでの水景制作に見る石組と植栽のポイント

石組の構図では、石組と底床の部分に対する空間のバランス、配石によって表現される流れが重要なポイント。構図素材となる石のラインがシンプルである分、石を少し移動させただけでも全体の印象が大きく変わるため、石を組む際には水槽から離れて全体を引いて見ることも必要になります。また、同じ石でもどの程度底床から露出しているかによって強さが変わるため、石の露出を底床への埋め方や盛土などによって微調整することも大切です。なお、構図の段階で石が多少強く感じられる場合でも、水草の植栽によって和らげることができるので、水草の種類と植栽範囲はこの点を考えて決めます。

### 無作為に見せるための配石

Aのラインはそれぞれの傾きが同じにならないように注意し調整。Bのラインは自然界でも流れに逆らう石があることを表現している。

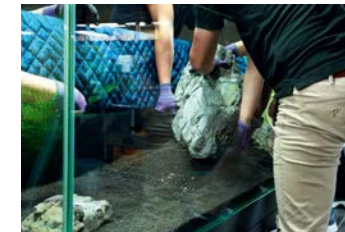


©AQUA DESIGN AMANO



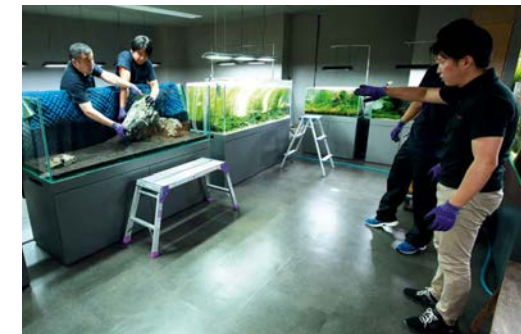
### 大型水槽の配石は慎重に

180cm水槽になると石が格段に大きくなる。特に50kgを越す親石を水槽に入れる際には細心の注意が必要。毛布などでガラスを保護する。スタッフ4人で声を掛け合って慎重に配石を進める。



親石の高さを上げるため、下に平らな石を入れる。それだけでは親石が安定しないので、周りにアクアソイルを盛り安定させる。高さを上げて傾けたことにより陰影が生まれ親石の迫力が増した。

### 構図



最も重要な親石の位置は、水槽から離れて見て微調整する。その他の配石も水槽全体を見ながら決定していく。

### 4

#### ガレ場の表現

石が崩れたガレ場の部分には、ヘアークラスなどが育っても見えなくなってしまうように小石より少し大きめで平らな石を配置。細かい部分の表現が水景に個性を与える。



### 不安定な石を固定する

時間が経っても石が傾かないように、不安定な石の下に小さめの石をかませてしっかりと固定。

### 配石は試行錯誤

当初、中央奥にも配石したが、親石が弱くなってしまったため断念。最終的に中央に抜けをつくることで、水景の奥に空間的な広がりを感じられるようにした。



### 空間部分の水草の植栽

中央の抜けをつくった場所には、さらに広がり表現するために盛土を施し、背の低い水草を植栽することで空間を確保。盛土は水槽の中央奥を高く、左右を低くして自然な流れを表現した。



## 七つの万天石で 迫力と遠近感を表現した 無作為の石組水景

【蒼天の庭】一度でも石組レイアウトに挑戦したことのある方にはご理解いただけると思うが、典型的な石組レイアウトは構成がシンプルである分、テーマを明確にしないと個性を出すのが難しい。今回の万天石を用いた180cm水槽の石組レイアウトは、なるべく少ない配石で迫力と遠近感を出すことをテーマに制作している。石を組む際には迫力や水の流れを表現しながらも作為をなくさなければならないというのが師である天野 尚の教えであった。そのためには自然から多くのことを学ぶ必要がある。私の中で石を組むことは人生の永遠のテーマになりそうだ。



©AQUA DESIGN AMANO

### DATA

撮影日 2019年1月23日(ADA)  
制作 本間 裕介(レイアウト制作・文)  
水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)  
照明 ソーラーRGB ×3(1日8時間30分点灯)  
ろ過 スーパージェットフィルターES-2400(バイオリオL)  
素材 万天石  
底床 アクアソイル・アマゾンII、パワーサンド・アドバンスL、バクター100、クリアスパー、トルマリンBC

CO<sub>2</sub> バレングラス・ビートル500、ビートルカウンターで1秒に5滴(タワー使用)  
AIR リリィパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分  
添加剤 プライティK、グリーンプライティ・ミネラル、グリーンプライティ・アイアン、グリーンプライティ・ニトロ  
換水 1週間に1度 1/3  
水質 水温25℃ pH:6.6 TH:20mg/L

水草 BIOみずくさの森 エキノドルス・テネルス ブロードリーフ *Echinodorus tenellus var. broad leaf*  
BIOみずくさの森 ヘアーグラス *Eleocharis acicularis*  
BIOみずくさの森 グロッソスティグマ *Glossostigma elatinooides*  
エキノドルス・アングスチフォリウス *Echinodorus angustifolius*  
ウイローモス(モスバッグ) *Taxiphyllum barbieri*

魚種 レッドファントム・テトラ *Hyphessobrycon sweglesii*  
サイアミーズ・フライングフォックス *Crossocheilus oblongus*  
オトシンクルス *Otocinclus sp.*  
ヤマトヌマエビ *Caridina multidentata*



## 水草の使い分けで 石組と空間を引き立てる 植栽テクニック



1

配石と植栽による遠近感の表現  
遠近感を表現するため、メインとなる手前の石の奥に少し小ぶりの石を配置。この石の根元にヘアグラスを植栽して石をボカすことで遠くにあるように見せ、配石の遠近感をさらに強調している。



手前の石よりも小ぶりの石を奥に置くことで遠近感を表現。



線が細く高さのあるヘアグラスは、石をボカすのに最適。

2

水草の高さで変化をつける

レイアウト奥側の植栽はヘアグラスをメインにしたが、単調にならないように親石の後ろと左奥の石の後ろにエキノドルス・アングスチフォリアを植栽して変化をつけた。



3

ガレ場部分の植栽

大きめの石の下につくったガレ場の部分は、下草が育った時に配置した石が見えるか見えないかの状態になるようにグロツソステイグマとヘアグラスを組み合わせで植栽。



BIOみずくさの森 ヘアグラス

ガレ場の表現には小石より大きさのある石を使用。



2種類の下草によって葉の間に石が見え隠れする配植に。

広がりの感じられる水景

石組の配石と植栽の工夫によって、空間的な広がりの感じられる水景となった。レッドファントム・テトラの赤が緑の草原に映える。



## 晩秋の渓谷から学んだ 新感覚の石組水景 構図のポイントを解説

ネイチャーアクアリウムの基本的な姿勢は「自然から学ぶ」ということですが、実際の自然を直接参考にするのはなかなか難しいことです。陸上の風景を忠実に再現しようとするとレイアウトがジオラマようになってしまい、自然を水景として表現するネイチャーアクアリウムの理念から離れてしまうからです。今回、レイアウトの参考にするため訪れた中津川渓谷のような風景は、水の流れが作り出した景観であるため、水景として落とし込みやすい自然と言えます。流木も用いているため純粋な石組レイアウトではありませんが、新感覚の石組レイアウトとして見ていただければと思います。



1



**メインとなる石を組む**  
底床を入れる前にメインとなる石を組む。前景に使用するグラベルは粒の摩擦が少なく、底床を入れた状態で石を組むと石がしっかりと固定されずに、崩れてしまう危険があるため。



2

### バランスを考えた凹型構図

今回の水景は渓谷をイメージしているため構図は凹型にした。親石、副石、捨石の順にバランスを考えながら配置していくが、虫食いと呼ばれるくぼみが八海石の特徴であるため、この形状になるべく近い親石と副石を使用することで構図に自然な一体感が生まれる。



3

### 底床を敷き分ける

底床は前景部分にアクアグラベル、背景部分にアクアソイルで敷き分けた。グラベルとソイルを敷き分ける際には、ソイルが手前に出てこないように隙間をしっかりと小石で埋める必要がある。



構図

### 渓流から着想を得た構図

自然の渓流では、川底の高低差や石などへの衝突によって水の流れに緩急が生まれ、水の力によって石の形状や配置も変化していく。そんな渓流から学んだ石の配置を90cm水槽の中に表現した。川石をメインに渓流沿いに生える木をイメージして流木も用いている。

©AQUA DESIGN AMANO

5

### 捨石とアクアグラベル

化粧砂が八の字を描くような捨石の配置にすることで、入り込むラインができて前景が単調になりにくい。近年はアクアグラベルを化粧砂として使用した水景が少なかったため、今回は渓流の川底の自然感を表現する意図であえて使用している。

### 晩秋の中津川渓谷

福島県の裏磐梯にある中津川渓谷は、新緑や紅葉の渓谷美から風景写真の撮影ポイントとして広く知られている。しっとりとした雨にぬれた晩秋の渓谷の風景から、今回の水景のインスピレーションを得ることができた。

福島県 北塩原村 2018年11月上旬／撮影 内田 成



### 渓谷の木を表現

石組の背後にブランチウッドを配置した。落葉によって葉数が少なくなっていき晩秋の渓谷の木を表現したかったため、流木にはあえてウィローモスを活着させなかった。

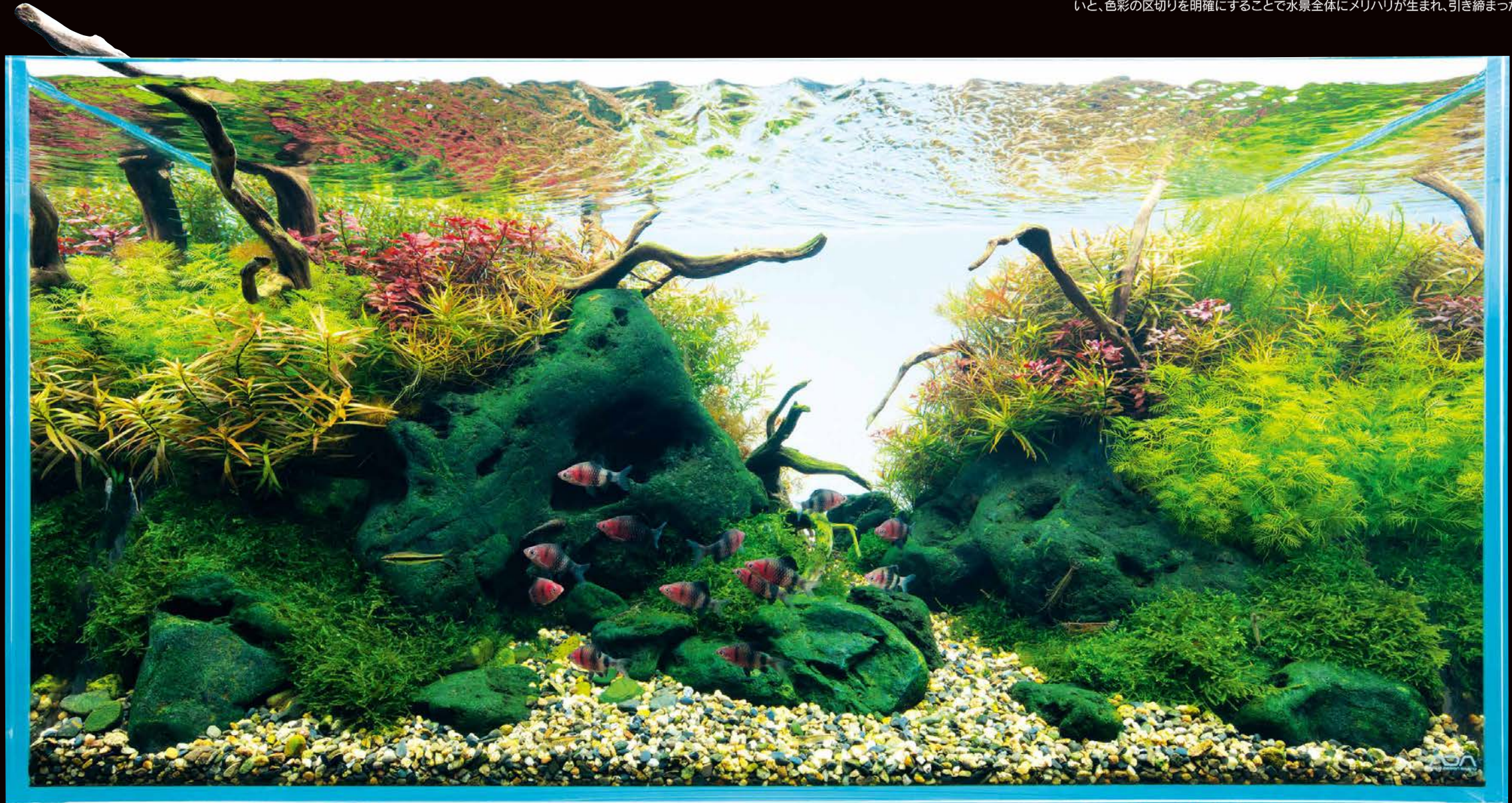


福島県 北塩原村  
2018年11月上旬／撮影 内田 成



有機質と無機質の融合を  
水草と川石で表現  
紅葉をイメージした水景

【水の中の紅葉～和～】晩秋の中津川渓谷(福島県・裏磐梯)からインスピレーションを得て制作した作品。紅葉に色づく木々と水の流れによって形づくられた岩肌、有機質と無機質の融合を色とりどりの水草と川石を使って表現した。深みのある赤い体色の魚たちが、あたたかも散りゆく落ち葉のように見える。有茎草の配植は色づく紅葉のようなイメージになるように、赤や黄色に色づく水草を多く使用。左側の茂みにルドウィジア・スーパーレッドなどの濃い赤色を多く入れることで、重心がより明確になるようにしている。上側には明るく華やか色合い、下側には渋く落ち着いた色合いと、色彩の区切りを明確にすることで水景全体にメリハリが生まれ、引き締まった印象となった。



©AQUA DESIGN AMANO

DATA

撮影日 2019年7月4日(ADA)  
 制作 内田 成(レイアウト制作・文)  
 水槽 キューブガーデン W90×D45×H45(cm)  
 照明 ソーラーRGB ×1(1日8時間30分点灯)  
 ろ過 スーパージェットフィルターES-600(バイオリオM)  
 素材 八海石、プランチウッド  
 底床 アクアソイル・アマゾンII、アクアグラベル、パワーサンド・アドバンスM、  
 パウター100、クリアスパー、トルマリンBC

CO<sub>2</sub> バレングラス・ピートル400、ピートルカウンターで1秒に5滴(タワー使用)  
 AIR リリパイプP-4 によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分  
 添加剤 プライティK、グリーンプライティ・ミネラル、グリーンプライティ・ニトロ、  
 グリーンプライティ・アイアン、ECA・プラス  
 換水 1週間に2度 1/3  
 水質 水温25℃ pH:6.4 TH:20mg/L

水草 BIOみずくさの森 ルドウィジア sp.スーパーレッド  
 BIOみずくさの森 ミリオフィラム・マトグロッセンセ  
 BIOみずくさの森 ニードルリーフ・ルドウィジア  
 BIOみずくさの森 セイロン・ロターラ  
 BIOみずくさの森 ロターラ・ロンドンジョリア 福建省  
 BIOみずくさの森 ロターラ・ナンセアン  
 BIOみずくさの森 ロターラ sp.ベトナム  
 BIOみずくさの森 プレミアムモス  
 ルドウィジア・ブレビペス  
 オレンジ・ミリオフィラム  
 ウイローモス(モスバッグ)  
*Ludwigia sp. "Super red"*  
*Myriophyllum mattogrossense*  
*Ludwigia arcuata*  
*Rotala sp. Ceylon*  
*Rotala rotundifolia "Fujian"*  
*Rotala nanjean*  
*Rotala sp. "Vietnam"*  
*Riccardia chamedryfolia*  
*Ludwigia brevipes*  
*Myriophyllum sp. (from Roraima)*  
*Fontinalis antipyretica*

魚種 ブラック・ルビー  
 サイアミーズ・フライングフォックス  
 オトシソックス  
 ヤマトヌマエビ  
*Puntius nigrofasciatus*  
*Crossocheilus oblongus*  
*Otocinclus sp.*  
*Caridina multidentata*



## 紅葉の渓谷を水景で表現 有茎草の色彩を生かすための 配植と管理のポイント

1



### 有茎草の使い方

凹型構図の場合、左右で同系統の有茎草を使用すると調和が生まれる。ただし、鏡写しのように同じ種類と量で植栽してしまうと構図がシンメトリーとなって自然感が薄れてしまうため、左右で配植に変化をつける必要がある。赤と緑の補色効果を利用し、Aの部分には最も赤の濃いルドウィジア sp. スーパーレッドを植栽。



BIOみずくさの森  
ルドウィジア sp.スーパーレッド

2

### 有茎草の管理方法

今回は底床に栄養分が控えめなアマゾンIIを使用したため、アオミドロなどの藻類に悩まされることはなかった。有茎草の葉色をより濃く鮮やかにしたい場合は窒素分を補給するグリーンプライティ・ニトロを日中数回に分けて添加する方法が有効。また、底床へのボトムプラスの追加も同様の効果がある。



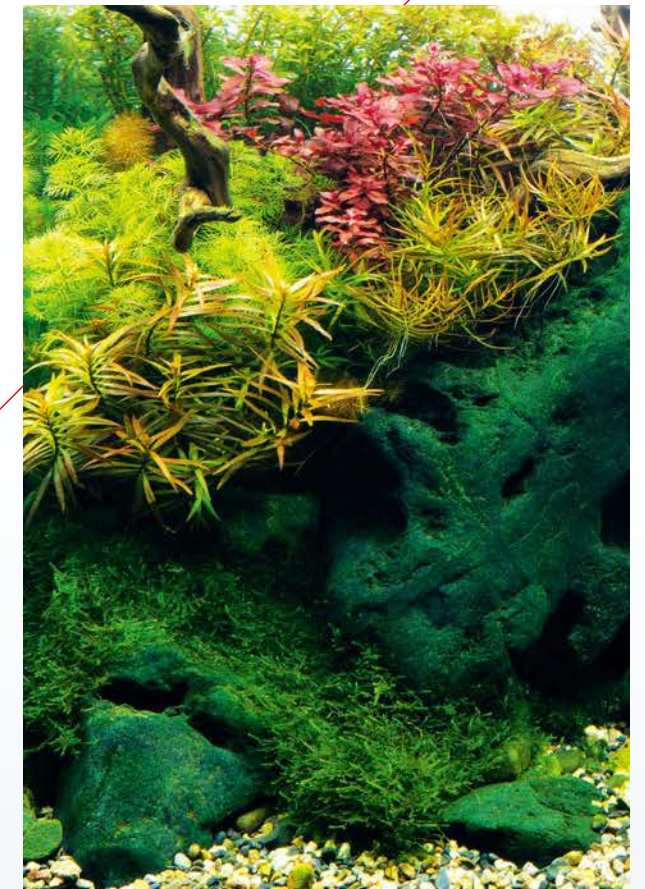
ボトムプラス



グリーンプライティ・ニトロ

### 水景で表現された紅葉の渓谷

紅葉の渓谷をイメージし、凹型構図に華やかな色彩の有茎草を多用した水景。黒っぽい八海石が全体の印象を引き締め、魚の体色も引き立てている。





IWAGUMI  
1

## 30年以上前に石組を確立していたという驚き

天野 尚が最初に制作した60cm水槽の石組レイアウトは仙見川石を使用し、水草は当時日本ではほとんど知られていなかったエキノドルス・テネルスのみを植栽、魚はカージナル・テトラのみを泳がせたものだったとされています。上の水景は同時期に120cm水槽に制作されたもので、仙見川石の石組にエキノドルス・テネルスとカージナル・テトラの単植単泳という構成は、最初

の石組レイアウトと共通しています。石組レイアウトに取り組み始めてまだ日の浅い時期の作品ですが、この時点で古典作庭技法の三尊石組に基づく石の組み方や、配石と石の傾きによる水の流れの表現など、石組レイアウトの基本的な方法が確立されていたことは驚きです。天野が確立した石組の世界は、その後、日本や世界のアクアリストに大きな衝撃を与えることとなります。

30年以上前に天野が制作した川石・単植単泳の石組レイアウト。学ぶべき天野流石組の源流といえる。

W120×D45×H45 (cm)  
制作・撮影/天野 尚 1985年撮影

IWAGUMI  
2

この八海石の石組は14年間維持されている。石組は変化させず創造配植によって自然の植生遷移を表現。

W350×D75×H75 (cm)  
制作/天野 尚 2017年撮影 (ADA)

## 天野 尚が残した石組の極意

天野 尚が最後に制作した石組レイアウトは、現在もネイチャーアクアリウム・ギャラリーに展示されているこの水景です。天野にとって180cm水槽は最もレイアウトをつくりやすい水槽サイズで、数多くの傑作がつくられてきました。180cm水槽になると使用する石もかなり大きくなるのですが、たくさんの石の中から使用する石を選び、水槽の中に組むスピードは年々速くなっていったように思い

ます。短時間で迷わずに石を組むことは、石組に勢い(=迫力)を出すための極意と言えますが、そのためには豊富な経験が欠かせません。石組を極めるには、自然の中でできるだけ多くの石を観察し、できるだけ多く石組をつくるしかないようです。また、天野は最後まで石組の新しい表現の模索を続けており、このレイアウトでも山石である万天石のイメージから山のカレ場を表現しています。

IWAGUMI  
3

この石組レイアウトはNAギャラリーで展示中。天野が残した石組の真髄に触れてみてはいかがだろうか。

W180×D60×H60 (cm)  
制作/天野 尚 2017年撮影 (ADA)

## 14年間維持されている石組

この八海石の石組レイアウトは、現在、ネイチャーアクアリウム・ギャラリーのエントランスを飾っているものです。1994年にADA本社が落成してから、エントランスの3m50cm水槽にはいくつかの水景が制作されてきましたが、2005年に制作された石組レイアウトから石組自体は14年間変更されていません。この石組が制作された当初、植栽された水草はグロッソスティグマ、エキノドルス・テネルス、エキノドルス・ラティフォリウスの3種類だけでした。その後、創造配植を繰り返し、現在の有茎草とテープ状の水草を主体とした配植になりました。この石組が14年間維持されている理由として、天野の中で八海石の石組としては完成の域に達していたことと、創造配植によって自然の植生遷移を表現したかったことがあります。自然界において大きな石は不動ですが、石の周りの植生は時間とともに変化していくのです。

水景クリエイターとして30年以上のキャリアのあった天野 尚(2015年没)。そのキャリアを通じてこだわり続けてきたのが石組レイアウトです。当初、石組レイアウトは天野にとっても相当難しかったようで、一晩かかりで組んだ石組を翌日には気に入らなくなり、すぐに崩してしまったというエピソードも残っています。そんな天野が石組レイアウトの真髄として折に触れて語っていたのが、「自然の石をよく観察する」ということでした。ネイチャーアクアリウムで最も重要な「自然から学ぶ」という姿勢も、石組レイアウトの真髄から来ているものなのです。石組レイアウトの歴史を振り返りながら、天野流石組の極意を学びましょう。

NAギャラリーでは現存する天野 尚 作の石組レイアウトを展示。



## NA IWAGUMI REVIEW

## 「石組レイアウトの極意を学ぶ」

ご存知の方も多いかと思いますが、「ネイチャーアクアリウム」という言葉が生まれる以前から、天野 尚は石組レイアウトに取り組んできました。ここでは天野が創造してきた石組の世界から、その極意を学びましょう。



# みずくさ

# FOCUS

第22回 文・杉本 俊輔

## 「侘び草マットの進歩」

ADAの生体製品はより良いカタチを目指し日々工夫を凝らしています。侘び草マットにおいては、最近、2点ほど改良されたポイントがあります。外見では分かりにくいところですが、使用する上では大きな変化となりました。今回はその改良点について紹介したいと思います。



侘び草マット ウィローモス



侘び草マット  
ラゲナンドラ・ヴィネイチャンドラ



侘び草マットから伸びたウィローモスは、メダカの産卵床にも最適。

**モ**スや水草などを特別なマットに活着させた侘び草マット。その良好な活着状態や透水性、そして水に沈む特性を生かし、さまざまな場所で活躍しています。その使いやすさに磨きをかけるため、さらに2つの点において改良が加わりました。一つめはマットを製造する際の原料の成分を工夫し、pHの変動を極力小さくするように改善しました。水量が少ない場所で使用しても、他の生体に影響がありません。二つめはモスを活着させる際に

必要だった糸を使わずに仕上げるように改善しました。従来は生分解性の糸を使っていましたが、特殊な生産方法を考案し、糸なしでも均一にモスが生えそろうようになりました。以上2点の進歩でより使いやすさが向上した侘び草マット。写真のようにW20×D20×H20(cm)のネオグラス エアに数種類の侘び草マットを敷き詰めて簡易的な水草レイアウトもできるようになりました。今後もさまざまな使い方で侘び草マットをご活用ください。

# NEOGLASS AIR STYLE #10

ネオグラス  
エア  
スタイル

493cm<sup>3</sup>の  
小さな水辺の保全

Text\_Kota Iwahori

今回はネオグラス エア W30×D18×H12(cm)に、有茎草MIXとかれんを1つずつ、ピグミーマッシュルームを3つ並べたレイアウトです。侘び草の生長はとて速く、長く伸ばして解放感ある姿を観賞するのも良いでしょう。勢いよく繁るルドウィジアやピグミーマッシュルームなどは優勢種となりやすく、他の水草を覆い、メダカの遊泳域を狭めてしまいます。ポゴステモン・エレクタスは次々に花芽を出しますが、花にエネルギーを使い、少しずつ草体は弱っていきます。さて、この小さな水辺を守るためにはどういった管理が必要なのでしょう？ 水槽が大きくても小さくても、そんな風に生き物それぞれの健康や相互関係を考えて、手を加え、長くバランスを整えていく。侘び草のレイアウトはシンプルですが奥の深い趣味です。

### DATA

ネオグラス エア  
W30×D18×H12(cm)  
[底床]  
トロピカルリバーソイル

【植物】  
侘び草 有茎草MIX  
侘び草 かれん  
侘び草 ピグミーマッシュルーム

【魚種】  
幹之メダカ  
制作/岩堀 康太





# PLANT ART STUDIO

プラント アート スタジオ



初夏の清流にたなびく水草たちは  
水彩画のように淡く美しい。

Photo & Text / 本間 裕介

Potamogeton × yamagataensis

22

## INFORMATION

### NATURE AQUARIUM PARTY 2019

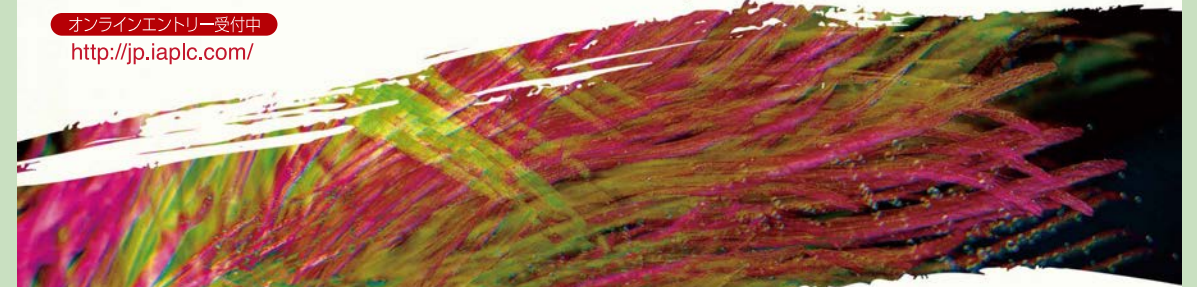
Oct 19<sup>SAT</sup>-20<sup>SUN</sup>, 2019 in NIIGATA

会場：ANAクラウンプラザホテル新潟  
アクアデザインアマン 本社



オンラインエントリー受付中

<http://jp.iapl.com/>



### 天野尚展

TAKANOSHII AMANO EXHIBITION

自然を愛するすべての人へ。

写真家、水景クリエイターとして世界的に活躍してきた天野尚。  
その生涯をかけた創作活動の記録を展示。

2019.8.7(水) - 8.19(月) 新潟伊勢丹 7階=アートホール

入場料 500円(税込) ※中学生以下無料

6階=特設会場 2階=パーキング側入口特設会場 入場無料

7階・6階会場 / 時間 10時-7時 [最終日5時終了]

10日(土)、11日(日・祝)、12日(月・振)、14日(水)、15日(木)、

17日(土)は10時-7時30分※ご入場は各日閉場の30分前まで

【主催】新潟伊勢丹 【共催】NST 【後援】新潟市 【協力】株式会社アクアデザインアマン

新潟伊勢丹開店35周年記念



ADAが水槽展示協力、  
講師(8月31日14時~16時)として参加

### 潟の記憶展

- そこでは風土と生活と人がいつも握手していた

2019年8月6日(火)~10月6日(日)

休館日 月曜日(8/12、9/16、23 は開館)、8/13、9/17、24

9:00 - 21:00 会場 砂丘館(旧日本銀行新潟支店長役宅)

新潟駅万代口より浜浦町線C2系統または

観光循環バス乗車「西大畑坂上」下車徒歩1分

観覧無料

主催 砂丘館(指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体)

協力 アクアデザインアマン、海東歴史民俗資料館、新潟と会、Bricole、豊かな越後平野の原風景を考える会

#### STAFF CREDIT

AQUA DESIGN AMANO CO., LTD.  
©2019 Printed in JAPAN

Publisher

天野 しのぶ

Art Direction

NATURE AD DESIGN

Design

丸山 悟司 / 市川 亮 / 板橋 広夢

Editor

大岩 剛 / 阿部 正敏 / 本間 裕介 / 杉本 俊輔 / 岩堀 康太

Printed by

株式会社山田写真製版所

Published by

株式会社 アクアデザインアマン

<https://www.adana.co.jp>

NEXT AQUA JOURNAL

OCTOBER.2019 vol.288 / 2019年9月10日(火) 発売予定

アクアジャーナルの情報は一部、  
ADAホームページで公開しています。





DOOA, an inspiring brand, helps you enjoy aquatic plants more freely. Minimal and easy, and designed as a platform allowing everyone to nurture plants indoors. Feel closer to nature, and bring beauty into your life.

# 新しい着生植物の楽しみ方

## TERRA BASE

テラベース



- テラベース M  
Ø10×H23 (cm) ¥2,700 (税別)
- ネオグラス エア専用ガラスフタ  
20×20 (cm) ¥420 (税別)
- ネオグラス エア  
20×20×35 (cm) ¥6,000 (税別)

お求めは各販売特約店へお問い合わせください。

DOOA dooa.jp

### 着生植物を付ける



クリスマスモスやビーコックモスは侘び草マットからはがして使用できます。着生植物はモス類のほか、シダ類やアヌビアス、着生ランなどが適しています。リシアラインなどで固定しましょう。



侘び草マット  
クリスマスモス



ディネマ・  
ポリブルボン(ラン)



アヌビアス・  
グラブラ

### テラベースの日常管理



少なくなったら  
水を足す

テラベースの中に水を注ぐことで、表面から水が少しずつ染み出し、着生植物に水を供給することができます。テラベースの中の水は約1週間ほどでなくなるので、少なくなったら水を注いで表面が常に湿った状態になるように管理してください。栄養素の補給には侘び草ミストがオススメです。



侘び草ミスト